

提示されました。その意図するところは、学修が受け身となっているため、自ら考え、主体的に問題解決に立ち向かう能力や態度が不足していることを大学の役員、教員・職員が深刻に受け止め、能動的学修の実現に向けた教育機能の再構築及び教学マネジメントの改革が喫緊の課題であるとしています。

そこで本会議では、教学マネジメントとして対処すべき課題の対応策を確認するとともに、能動的学修を効果的にすすめる方略について、ICTの活用を含め考察する機会にしたいと考えております。

II. プログラム

13:00 開会挨拶 向殿 政男氏（私立大学情報教育協会会長）

13:05 講演 「主体的学修を実現するための教学マネジメント」

学士課程教育の質的転換を図るための基本的な課題を踏まえ、カリキュラムの体系化、FD推進による教員の意識改革、設置科目数の削減、教育の質を向上させる仕組み、全学的ガバナンスの強化策など、具体的な対処の工夫について紹介いただきます。

講師： 田中 愛治氏（学校法人早稲田大学理事、中央教育審議会大学分科会大学教育部会専門委員）

14:25 休憩

14:45 講演 「能動的な学びを実現する『話し合い学習法』と学修支援システムを用いた質保証への取り組みー創価大学の事例を踏まえて」
大規模な授業に「話し合い」を導入することで、自律的学修の時間の不足を解決する戦術としてのアクティブラーニング型の授業の在り方と学修支援システムで共通科目の質保証を可視化した取り組みを紹介いただきます。

講師： 高木 功氏（創価大学経済学部教授、日本語・日本文化教育センター長）

16:00 閉会

参加状況は、41大学から59名であった。

〔他3〕研究会等のビデオ・オンデマンド配信

大学教員のファカルティ・ディベロップメント、職員のスタッフ・ディベロップメントの貴重な資料として、教育方法及び教材開発、教育・学修支援の情報通信技術活用などの講演、事例紹介などの著作権処理済のコンテンツをデジタルアーカイブしてデータベース化し、希望する会員に有料でオンデマンド配信している。コンテンツは22年度167件、23年度147件、24年度144件の計458件となっている。コンテンツの使用環境は、Windows XP, Windows Vista, Windows 7に対応し、追加アドオンソフト（Microsoft Office Animation Runtime、無料でインストール可能）が必要である。24年度分の配信分担金は正会員31,500円から52,500円、賛助会員は一律42,000円などで、22年度分は全て無料としている。利用人数無制限で参加申込みはWebで行っている。